

翼

森野 水琴

金の翼は暖かい  
金の翼に包まれた者が つぶやく言葉

金の翼は 旅立つ者を 追いかけたりしない  
その成長した姿を 微笑んで見送る

傷ついて 疲れ果てて 戻ってきた者を  
金の翼は 拒んだりしない  
やさしく その翼で 包んでくれる  
その者は 安堵の吐息とともにつぶやく

金の翼は暖かい

翼を広げて 三年ぶりに訪れた地  
逢えた人もいれば 逢えなかつた人もいる  
聞き取れなかつた音もある  
三年の月日の長さを思い知らされる  
一期一会の積み重ね  
来年また訪れるのを楽しみにしよう

たおやかに しなる枝  
折れることなく 持ちこたえる  
そのたくましさに 心打たれ  
生きる力が湧いてくる  
吹く風も 何するものぞ  
たおやかに ただ たおやかに

風の吹く日も 雨の日も 父鳥は出かける  
妻と子どもたちに 食べさせるための 狩りに出かける  
妻と子どもたちの 声援に送られて出かける  
苦労して手に入れ 巣に帰つて来た父鳥を  
歓声をあげながら 迎える妻と子どもたち  
きょうもまた 鳥たちの平和が保たれる

高みへと 歩み続ける 人の背は  
黙々と ただ黙々と 後ろの人たちをいざなう  
ともに目指す高みへと いざない続ける  
黙々と ただ黙々と

喜びに 沸き立つ声を 聞きながら  
やがて巣立ちしていく 子どもたち  
見送る親鳥は 笑みを浮かべ 幸多かれと祈る

沁みる言の葉 数あれど  
ひとつひとつを 味わいて  
心の中に響かせば  
さらに沁みいく すみずみまでも

音に聞く 彼方の地にも おもむかむと  
翼を鍛え 引き連れて  
しばしの別れ また逢わむとぞ 飛翔せむ

舞い戻り 翼休める 鳥たちの  
喜ぶ声も にぎやかに  
森にこだましては 余韻を楽しむ  
四年ぶりの 祭りの音も 華やいで  
天にも届けと 声あげて  
かつぐ神輿が 喜び揺れる

ようこそ森に  
こもれび浴びて 歩くにつれて  
新たな緑の いぶき吸いこむ  
紡ぐ言の葉に 愛も微笑む

語り部の 子孫たちが 奏でる調べに  
微笑みながら 舞う人たちも  
より あてやかに 遊ぶらし